

会長の時間 第17回 加賀山年度後期の目標と提案

日出ロータリークラブ

会長 加賀山 茂

はじめに

これまでの会長の時間で、私は、ロータリークラブの基本的な理念について、「四つのテスト」の意味（第1回）、「ロータリーの目的」の意味（第2回）、「五大奉仕部門」（第3回）、「公平とは何か」について、タクシーの相乗りの場合の料金の公平な負担について検討させていただき（第5回）、「微笑みを微笑みで返す」とか「いただいたら、お返しする」とかという共感の抱える「やられたら、やり返す」というジレンマ（第6回）、偽りの親睦と四つのテストの関係（第7回）、新型コロナウイルス感染症対策（第8回）、善行とは何か（第9回）、善行褒章とその基準（第10回）、善行褒章基準の日独比較（第11回）、子ども食堂（第12回）、地方創生（第13回）、コロナ禍における国民の三大義務の支援（第14回）、機会の三つの扉の応用（第15回）、前期の反省と後期の抱負（第16回）について話しました。



そして、いずれの回においても、本年度のRI会長（Holger Knaack氏）のテーマである「ロータリーは機会の扉を開く」を活用させていただき、3つの扉の色に即して、**赤い扉**は、「親睦（和らぎ睦び）」として、**黄色の扉**は、「職業倫理の向上」として、**青の扉**は、「次世代への奉仕活動の実践」として整理させていただきました。

今回は、2021年の目標を語りたいと思います。

1 後期に向けての日出ロータリークラブの奉仕活動

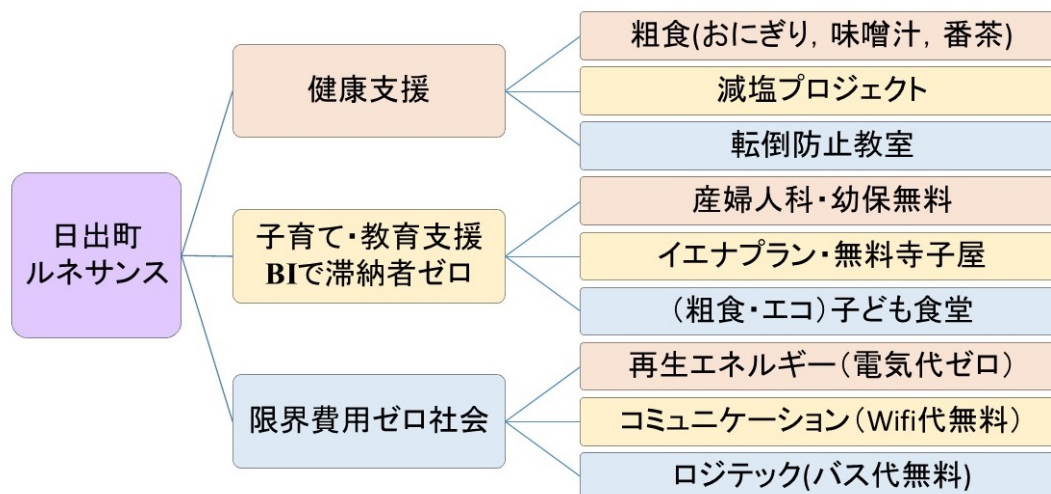
前回検討した前期の反省を踏まえて、今日は、後期において、日出ロータリークラブが「日出町に貢献できる奉仕活動は何か」を考えてみたいと思います。その場合に、日出町が、子育て世代にとって魅力的な町となるために、何をすべきかという視点から、今後の活動目標について考察してみました。

例によって、赤、ゴールド、青の三つの機会の窓の考え方を活用して、子育て世代にとって魅力ある町にするためには、第1に健康支援、第2に子育て・教育支援、第3に再生エネルギーの活用によって、限界費用をゼロに近づける活動が必要だと思えます。

(1) 健康支援

第1の健康支援については、イギリスで成功を収めている減塩プロジェクトに倣って、心臓疾患の減少を実現すること、精白糖の利用を制限することによって、糖尿病予備軍を減少させること、子ども食堂のメニューも粗食を中心とした健康メニューとし、地産・地

消，食品ロスゼロをめざすとともに，転倒予防教室を開催して，ストレッチ・筋トレを普及することによって，一人ひとりの町民の健康な体作りを支援する必要があると思います。



(2) 子育て・教育支援

第2の子育て・教育支援については，子育て世代を町に呼び込むためにも，産婦人科・幼保費用を無料とすること，教員の資質を向上させるために，40周年事業として，小中学校の教員をイエナプラン・オランダ研修への派遣を開始すること，前回に述べた子ども食堂と無料の寺子屋塾を各駅舎に開設し，キッチンカーで，各小中学校と連携することが必要だと思っています。

(3) 限界費用ゼロ社会を実現するための支援

第3の限界費用ゼロ社会の実現に関しては，町に働きかけて，国の補助金等を利用して，再生エネルギーを利用できるためのインフラを整備して電気代の無料化をめざすこと，5G，または，WiFi環境を整備して，インターネットの利用料の無料化をめざすこと，シェアリングカーとマッチングの技術を使って，運賃の無料化を目指すことが必要だと思っています。

(4) 財源の確保のための支援

そのようにして，電気代，通信コスト，運送コストを限りなくゼロに近づけることができれば，安い費用で高品質の商品やサービスを提供することができ，比較的優位の原則によって，地方の産業が飛躍的に発展し，税収を増加することが見込まれます。その税収を使って，滞納者をゼロにするための支援活動を行い，一人ひとりの市民が健康で文化的な生活を送れるようにすることが，町の責務であり，それを支援することが日出ロータリークラブの奉仕活動の大きな目標となるように思います。

2. 目標実現のための実態調査

以上の今後の目標を実現するために、後期には、以下の 3 つの実態調査を行いたいと思います。調査の経過・結果については、折りに触れて報告していく予定です。

(1) 日出町の健康支援活動の実態調査

日出町では、生活習慣病を予防するためにどのような取組みをしているのか。減塩プロジェクト、糖質制限プロジェクト、転倒予防教室が存在するかどうか、存在するとして、その実態はどのようなものなのかを調査したいと思います。

(2) 日出町の子ども食堂の実態調査

日出町の子ども食堂は、現在 3 か所があるとのことですが、その実態は、隔週おきに実施しているなど、貧困対策としては不十分なようです。そこで、日出町として、どのような支援策を計画または実施しているのか、調査を行いたいと思います。

(3) 日出町の代替エネルギー開発の実態調査

代替可能エネルギーとしては、太陽光、風力、潮力、地熱、バイオマスなどを利用した発電、間伐材の利用等が考えられますが、日出町では、民間を含めて、どの程度の計画、実際の活動がなされているのか、調査を行いたいと思います。

3. ハイブリッド例会の提言

コロナ禍で、近隣のロータリークラブでは、例会を続々と休会にしています。しかし、ロータリー活動の中心である例会を休会としていたのでは、ロータリークラブは死んだも同然です。

インターネット、特に、Zoom 等のソフトウェアを使って、リモート例会を継続することは月額 2 千円の費用でできるのですから、まず、この方法を検討すべきです。

その上で、12 万 6,000 円を支弁できるのであれば、**Meeting Owl** という上部に 360 度で回転するカメラを有し、会場の模様（発言者の映像と音声）を自動的に Zoom に取り込むことができる装置を購入し、一部の役員（5 名～10 名以内に限定）が会場に集まり、その他の会員は Zoom を使ってリモートで例会に参加するというハイブリッド例会を開催すべきだと思います。

もしも、ハイブリッド例会が可能となれば、通常の例会と同様の活動が可能となり、コロナ禍においても、日出ロータリークラブの灯を消すことなしに活動を継続できます。

